

1. 本ガイドラインについて

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（2020年5月4日）においては、「今後、感染拡大の予防と社会経済活動の両立を図っていくに当たっては、特に事業者において提供するサービスの場面ごとに具体的な感染予防を検討し、実践することが必要になる。」と提言されているところである。国際高等研究所においても、その活動を通して、感染拡大の予防（施設内における交差感染を防ぐ、職員が感染を広げない、職員が感染しない）と社会経済活動の両立を図っていくに当たって、活動内容に応じて具体的な感染予防を検討し、実践することが重要である。

このため、国際高等研究所においては、政府の基本的対処方針を踏まえ、専門家会議提言において示された感染拡大を予防する「新しい生活様式」の実践例も踏まえつつ、交流事業（ゲーテの会、エジソンの会）の実情に応じた感染予防対策及び施設利用者に対する協力依頼・情報発信、および職員の感染予防対策に関して、本ガイドラインを定めることとする。

なお、新型コロナウイルスの最新の知見や今後の各地域の感染状況等を踏まえて、本ガイドラインは随時見直すこととする。

2. 感染防止のための基本的な考え方

国際高等研究所（以後、高等研と記す）の交流事業は、けいはんな学研都市における産学公民のネットワーク構築や共同プロジェクトの推進などに貢献しており、けいはんな学研都市における中核機関として高等研が「知的ハブ機能」の役割を果たす事業となっている。ポストコロナ時代においても、高等研がその社会的役割を果たし続けるためには、工夫しながら交流事業を継続する必要がある。加えて、けいはんな地区の研究者や住民を中心として、高等研の交流事業の根強い支援者も多い。

高等研において交流事業を実施する際には、事業内容を十分に検討したうえで、施設内において、職員や参加者への新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、十分な対策を講じつつ交流事業を実施する必要がある。特に、①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件が重なる場では感染を拡大させるリスクが高いと考えられているため、これらの密を避ける対策を講じることが必要になる。

本ガイドラインは、高等研の交流事業を通して、感染拡大の予防（施設内における交差感染を防ぐ、職員が感染を広げない、職員が感染しない）を徹底することを趣旨とする。

3. 具体的な対策

3-1. リスク評価

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路である、①接触感染と、②飛沫感染のそれぞれについて交流事業実施時における職員や施設利用者等の動線や接触等を考慮したリスク評価を行い、そのリス

クに応じた対策を検討する。

① 接触感染リスクの評価

高頻度接触部位に次のものが考えられるため、特に注意する。テーブル、椅子の背もたれ、ドアノブ、照明のスイッチ、蛇口、手すり、トイレの便座、便座のふた、トイレトペーパーのふた、水洗レバーなど。

② 飛沫感染のリスクの評価

換気の状態を考慮しつつ、人と人との距離がどの程度維持できるかを評価する。また、施設内で大声などを出す場がどこにあるかなどを評価する。

3-2. 高等研内の対応策

① 人と人の距離など：3密（密閉、密集、密接）の回避

各事業において、イベントを開催する部屋の収容人員に対して、募集人数を50%以下に抑える。同時に、席の配置を工夫して人と人との距離を1m以上確保する。

参加者の来場時には、参加者が密にならないように整理を行う。職員および参加者にはマスク着用を周知し要請する。

施設の換気の状態を考慮しつつ効果的な換気を行う（出入口扉の開放、換気扇を回す、空気循環器の運転など）。

受付業務を行う際には、職員はフェイスガード、マスク、手袋を着用し、現金の受け渡し時はトレーを使用する。

② 症状のある方の入場制限

入場時に非接触温度計を用いて参加者の体温チェックを行ない、37.5度以上の発熱者には入場をご遠慮いただく。37度以上の発熱や、軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼びかける。入場時には、社会的距離の確保の徹底、咳エチケット、会場内での大声の発生は控えていただくこと、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底などを呼びかける。

Web申し込みにより必要事項を事前に登録いただくことを推奨し、当日申し込みの場合は必要事項を用紙に記入していただく。このようにして、参加者の必要な情報を入手して名簿を作成し、適正に管理する。

③ 消毒等

入口および会場内に、手指消毒用アルコールを設置する。食べ物は提供しない。飲み物は500mlペットボトル水を希望者に配布する。受付は、透明ビニールカーテンで遮蔽する。

参加者が使用するマイクは、固定マイクを使用して参加者席から2m以上の距離を取る。参加者の質問終了後は、直ちに、手袋を着用して使用した固定マイクの清拭消毒を行う。

④ トイレ

トイレは、イベント前後に、契約している清掃会社（関電ファシリティーズ株式会社）により清掃していただく。トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。トイレの出口に手指消毒用アルコールを設置する。

⑤ 休憩スペース

休憩時間を通常時より長く設定して、トイレなどで密にならないように留意する。喫煙スペースは室外にのみ設置する。

⑥ ごみの廃棄

鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。ごみを回収する人は、マスクや手袋を着用する。マスクや手袋は使い捨てとし、脱いだ後は必ず石鹸と流水で手を洗う。

⑦ 清掃・消毒

イベント前後の清掃は、契約している清掃会社（関電ファシリティーズ株式会社）により実施していただく。ただし、イベント終了後に続けて4日以上長期休暇に入る場合は、その必要はないものとする。

⑧ その他

高齢者、持病のある方や妊婦については、感染した場合の重症化リスクが高いことから、より慎重に注意喚起を行う。地域での感染拡大の可能性が報告された場合はその都度対応を検討する。

以 上